

## 放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

公表： 2024年3月1日

事業所名 放課後等デイサービスAmi

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	○		児童の成長により個々に動けるスペースが限られないように活動内容ごとに確保している。	
	2	職員の配置数は適切である	○		常に人員基準を満たす勤務を行っている職員の仕事内容に偏りが無いよう分担し負担を軽減している。	
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	○		手洗い場などの床に水滴が落ち滑らないように滑り止め防止マットを敷いている。	
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	○		夕方に1日の振りかえり、毎朝の申し送りや活動報告書等にて支援の在り方の統一を心がけている。	
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	○			評価のご意見を、今後につなげていく為に職員会議を行い、業務改善が必要なところは見直していきたい。
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	○		URLを連絡帳でお知らせし、ホームページにて、閲覧して頂けます。	URLを連絡帳でお知らせし、ホームページにて、閲覧して頂けます。
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	○			評価結果を基に改善し支援の向上を図る。
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している		○		・個々での積極的な研修はありますが、職員全体の研修会を増やしていきたい。 ・子どもたちの支援に実践出来る様な研修に積極的に参加したい。
適切な支援の提供	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	○		定期的に行う面談だけではなく日々の活動の中でも強み・弱みを見つけ出せるように様子観察を行っている。	
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	○		適応行動の状況を図る為に、標準化されたアセスメントツールを使用しています。	
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	○		主になる指導員が立案し、改善点があれば職員間で意見を出し合っています	
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	○		運動・制作・学習等のプログラムが同じ曜日に重ならないように1か月単位で毎日の担当を決めて固定化しないように行っています	
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	○			平日、土曜日、長期休暇期間に応じてプログラムを検討して支援を行っています。
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	○		保護者、園と連携し情報共有を行い、その時の状況に配慮し、支援を行っています	
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	○		子ども達の受け入れ時間前に職員間で本日の役割を把握し、チームで支援が出来る様に打ち合わせを行っています。	役割分担は連絡ノート等で事前に伝えるが、細かい活動内容の確認は怠りがちになっているので職員間でもより声を掛け合う必要がある。
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	○		終了後の申し送り・振り返りを行うとともに、課題が挙げられる児童については活動報告書に記入している。 又限られた時間の中ではありますが日々の変化や問題点などは情報共有を行っています。	当日欠席者の職員にも共有するため朝いちばんに申し送りを行うと共に本日の支援内容の統一やプログラムの内容担当や役割を話し合う。
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	○		全職員が児童の課題や、強みを知る事により支援の統一化を図れるように記録に残し共有を行っています	
18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	○			定期的モニタリングだけではなく、中間モニタリングが必要な児童については支援計画を見直し行うよう取り組んでいます	
19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	○			ガイドラインの総則の基本活動に基づいた支援を日々行っています。	

関係機関や保護者との連携	20	障がい児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	○		相談支援専門員、ご家族、学校と連携を図り児童の状況を把握している者が参画しています。
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	○	行事予定や下校時刻変更をご家族様から承っていない場合は学校のホームページやご家族様から同意を経た児童からは連絡帳を通して変更などをチェックしています。	基本的にはご家族様を通じて情報共有をさせていただいています。ご家族様の同意を経る児童に付きましては、直接学校と情報共有させていただいています。
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている	○	フェイスシート、アセスメントシート等を通じてかかりつけ医や担当主治医の氏名を把握しております	現在、当該児童は在籍していませんが、連携を取れる体制づくりを心がけています。
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	○	放課後等サービスのみなので未就学児の在籍無。	現在席の学校との連携や情報共有は家族様を通じたり、直接担当者会議で相互理解に努めていますが就学前の関係機関との連携は不十分であったので情報収集を行っていきます。
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障がい福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	○		現在に至るまで当該児がいませんが、今後に備えて、情報を提供できる体制を整えています。
	25	児童発達支援センターや発達障がい者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	○	・子ども部会に所属し、交互に意見交換等を行い連携を図っています。 ・専門機関と直接連絡を取らない児童は保護者様を通して情報共有を行っている。	事業所としては連携が図れてますが、助言や研修内容を職員全体に周知出来ないの、研修内容を職員会議や閲覧できる資料として周知できるように努めます
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	○	野外活動で公園へ行った際は近くの学童もいるので一緒に遊ぶ機会を伺っている	地域交流を図る為社会福祉協議会からのイベントに参加しています。
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している	○		
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	○		毎日の活動の様子を連絡帳に記載し、送迎の際やその他、随時、電話連絡等ができる様に環境を整え、共通理解が持てる様に努めています。
29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	○		研修の中で話題として上がっていますがペアレントトレーニングを保護者に薦めることが出来にくい現状ではありますが、支援や子育ての視点からアドバイスを行事や共に手立てを考へ面談を行うケースもあります。	
保護者への説明責任等	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	○	法改正や運営に変更があった場合はその都度、文書・電話・面談時にお伝えしています。	契約時に運営規定、支援の内容、利用者負担等について、丁寧な説明を行う様心掛けています。
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	○		電話相談、個別面談等を随時受け付け、対応できる体制を整えております。
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	○	コロナ緩和により保護者交流会、親子参加の遠足やAmiまつりを企画した。	
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	○		苦情の受付体制は随時整えており、適切な対応を心掛けています。今後も迅速かつ適切な対応を行います。
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	○	日々の活動の様子はブログにて活動概要等の発信を行っています。	イベント行事は前もって連絡帳やショートメール、送迎時に口頭で発信しております。
	35	個人情報に十分注意している	○	個人情報流出防止の為全職員が意識し細心な注意をしている。管理者は研修を行い保管している	
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	○	本人・家族の意向に寄り添い配慮している。	
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	○		コロナ緩和になったので今後は地域交流が出来るイベントや公園や町のごみ拾いなどを行い地域貢献をはかりたい。

非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	○			職員には閲覧できるように用意しています。保護者に対しては、年度代わりに周知して頂くため配布を行う
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	○		放課後の平日ではなく、時間にゆとりがある長期休暇や、土曜日に行うようにしている。	春と秋の年に2回以外に、近くの消防所で体験型訓練に参加しています。
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	○		研修に積極的に参加し、参加できなかった職員に対しては研修資料を閲覧できるようにしています。	
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し理解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	○			やむを得ず身体拘束が必要な当該児が現在、在籍しておらず、説明を行っておりませんが、危険回避の場合のみ身体拘束をせざるおえないときがある事の説明を行っていき理解を頂けるように努めていきます。
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	○		面談時にアセスメントシートを活用しアレルギーの確認を行いかかりつけ医と連携が取れる様に記入いただくようにしている	保護者との連携を図る事により、確認できています。
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	○		1日1ひやりを目標に、細心の注意を払う事を意識しています。	